

第 86 回 原子力安全専門委員会定例会（議事概要）

日 時：令和 8 年 3 月 16 日（月） 10:00～12:00

場 所：福井県庁 10 階 総合防災センター + Web

出席委員：

（現地） 泉委員、片岡委員、西本委員、藤野委員

（Web） 鞍谷委員長、大堀委員、黒崎委員、近藤委員、望月委員、
山本(章)委員、山本(雅)委員、吉橋委員

議 題：

- （1）原子力発電所周辺の環境放射能調査について
 - ・令和 7 年度 第 3 四半期（10 月～12 月）報告
- （2）原子力発電所の運転・建設および廃止措置状況
 - ・令和 8 年 1 月～3 月分報告

概 要：

- 原子力発電所周辺の環境放射能調査の結果、発電所の運転および廃止措置状況について、事務局より説明

（原子力発電所周辺の環境放射能調査）

令和 7 年度 第 3 四半期

- ・県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・浮遊じん放射能の連続測定の結果、いずれも天然放射能のレベルであった。
- ・一部の試料から過去の核実験フォールアウトが主要因と考えられるセシウム 137 が検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。
- ・一部の試料から県内原子力発電所の通常の管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、環境安全評価上問題となるレベルではなかった。

（発電所の運転および廃止措置状況）令和 8 年 1 月～3 月

- ・現在、敦賀 2 号機、高浜 2 号機、大飯 4 号機を除く県内発電所 5 基[※]が運転している。

※ 美浜発電所 3 号機、大飯発電所 3 号機、高浜発電所 1、3、4 号機

(主な質疑)

- Q. 一般の人はトータルの人体に対する影響が一番の関心事だと思う。一般の人に安心してもらうような一元的なパラメータを用いて、それがどれくらいの量だから問題ないという説明をすることは可能か。
- A. ここでは数字としては書いていないが、発電所周辺の放射線量の目標値としては $50\mu\text{Sv}/\text{年}$ という数字があり、それよりもかなり低い値 (0.001mSv 以下) となっている。それについては年度単位で評価し、問題ないということを年度報告で報告している。
- C. 高浜のトリチウムの濃度について、過去5年と比べると比較的多いということだが、高浜1、2号機が止まっている期間を含む5年と比べると、4基とも動いている今の方が高いのは当然だと思う。
- 4基とも動いていた2010年4月までの5年と比べてどうかを参考に付けると安心材料としてわかりやすいと思う。止まっていた期間を含む5年間と比べると高いが、4基動いていた5年と比べると大丈夫という文脈が一般の方にはよくわかるのではないかと思う。

以 上